

1. 環境科学課

環境科学課が平成 22 年度に行った非定期業務は、苦情等行政部局からの依頼検査，市民から依頼の飲料水水質検査等および環境省委託調査である。検体数および延べ項目数は表 1 のとおりである。

表 1 非定期業務総括表

区 分	検体数	延べ項目数
行政からの依頼検査	178	1,781
市民からの依頼検査	1,450	10,724
環境省委託調査	5	23
合 計	1,633	12,528

1) 行政からの依頼検査

行政依頼検査の検体数および延べ項目数は表 2 のとおりである。

表 2 行政からの依頼検査

区 分	検体数	延べ項目数
大気関係苦情等依頼検査	41	423
水質関係苦情等依頼検査	109	1,080
地下水汚染原因調査	20	269
消防局依頼検査	8	9
合 計	178	1,781

大気関係苦情等依頼検査

大気関係苦情等依頼の検体数を表 3 に示す。

) 降下ばいじん

環境局環境保全課からの依頼でデポジットゲージ法により，降下ばいじん総量及び不溶解性物質（総量）の検査を行った。

) 嗅覚測定

環境局環境保全課からの依頼で福岡市悪臭対策指導要綱に基づき悪臭苦情について人の嗅覚で判別する嗅覚測定を行った。

) 室内空気

早良区保健福祉センター衛生課の依頼で室内空気中の化学物質の検査を行った。ホルムアルデヒド，トルエン，キシレン，パラジクロロベンゼン，エチルベンゼン，スチレンの 6 項目について測定を行った。

) 揮発性有機化合物検査

環境局環境保全課からの依頼で光化学オキシダントに

関連する揮発性有機化合物の検査を行った。

表 3 大気関係苦情等依頼検体数

区 分	検体数	延べ項目数
降下ばいじん	23	46
嗅覚測定	11	11
室内空気	1	6
揮発性有機化合物検査	6	360
合 計	41	423

水質関係苦情等依頼検査

市民からの苦情等により行政部局から臨時に依頼されたものは 109 検体 1,080 項目であった。依頼部局は，環境局が多かった。また，苦情の内容は，河川水の着色原因調査や，井戸水等の水質に関するが多かった。依頼試験の検体数を表 4 に，詳細を「資料」に示す。

表 4 水質関係苦情等依頼検査検体数

依 頼 課	検体数	延べ項目数
環境局環境保全課	9	97
各区生活環境課	14	68
各区衛生課	2	19
その他	84	896
合 計	109	1,080

地下水汚染原因調査

地下水概況調査後，硝酸性窒素および亜硝酸性窒素が環境基準値を超えて検出された博多区青木地区と西区戸切地区，ふっ素が環境基準値を超えて検出された早良区西地区，鉛が環境基準値を超えて検出された西区生の松原地区において周辺の地下水調査を実施した。

調査検体数および分析項目数は表 5 のとおりである。

表 5 地下水汚染原因調査検体数

地 区	検体数	延べ項目数
博多区青木	5	70
西区戸切	5	70
早良区西	4	56
西区生の松原（1）	1	3
西区生の松原（2）	5	70
合 計	20	269

消防局依頼検査

消防局の依頼により焼損物中の残存油成分の分析等を行っている。依頼の内容は，火災における焼損物中の残存油成分の種類を調べることによる火災の原因調査であ

る。平成 22 年度は、3 件で 8 検体の依頼があった。

2) 市民からの依頼検査

市民から依頼される井戸水等の飲料水の水質検査を行った。依頼が最も多かったのは、pH、濁度、色度、臭気、硝酸性および亜硝酸性窒素、塩化物イオン、総硬度、有機物、鉄の 9 項目の分析を行う簡易項目検査であり 1,060 検体の依頼があった。また鉛、亜鉛、銅、蒸発残留物やトリハロメタンの分析を行うビル管項目検査は、103 検体の依頼があった。さらに、相談の内容に応じて任意の項目の分析を行う任意項目検査も行っており、17 検体の依頼があった。検体数および分析項目は表 6 のとおりである。

表 6 市民依頼検査検体数

区 分	検体数	延べ項目数
簡易項目検査	1,060	9,540
ビル管項目検査	103	894
任意項目検査	17	19
定性試験	270	271
合 計	1,450	10,724

表 7 化学物質環境汚染実態調査の項目別検体数

検 査 項 目	海水	精度管理	合計
セリウム	3	1	4
p-トルイジン	3	1	4
pH	3	0	3
COD	3	0	3
DO	3	0	3
SS	3	0	3
塩化物イオン	3	0	3
合 計	21	2	23

3) 環境省委託調査

環境省は化学物質による環境汚染の未然防止を図るため、化学物質の環境調査を行っている。本市では平成 22 年度は、詳細環境調査、モニタリング調査の 2 つの調査を行った。また、平成 15 年度から精度管理調査が導入されたことに伴い、22 年度も測定した全ての項目について精度管理調査を実施した。

詳細環境調査として博多湾の海水 3 検体について、セリウム及び p-トルイジンの分析を行った。また精度管理調査として分析項目毎に未知濃度試料の分析を行った(2 検体)。項目別検体数は表 7 のとおりである。

さらに、モニタリング調査の検体として博多湾の底質(3 検体)の採泥を行った。(分析は POPs 等について環境省が委託した他の機関で実施)